RI 第２６１０地区

東となみロータリークラブ会報

2014-2015 年度　No.44

事務局(新)　〒939-1652　富山県南砺市福光新町 56

TEL　0763-55-6125　　ＦＡＸ 0763-55-6147 、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2014-2015 年度　会長　坂井彦就　、幹事　岩崎　修

2014-2015 年度 RI テーマ

Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

（ゲイリーC.K.ホァン会長）

〜〜〜

例　会　記　録

第１７７０回例会

平成 27 年 6 月 3 日(水)ＰM0：30

よいとこ井波

１．点　鐘　：齊藤副会長

２．国歌「君が代」斉唱

３．ソング：奉仕の理想

４．月誕生日：岩崎会員(28 日)

５．会長の時間(代理：斎藤副会長)：ご苦労様です。先日来より地区協議会お疲れ様でした。また、前回は５クラブ親睦ゴルフコンペということで大変ご苦労様でした。今日は坂井会長がお休みということで副会長が代理を務めさせていただきます。先日のコンペに７人の会員に参加いただき、その中の上位３名（小西、岩﨑、宮窪）によるスコアで、最近にない第３位という成績でありました。特に小西選手には頑張っていただきました。この会場で今年度行う例会は今日が最終であります。６月に３回お集まりいただく機会がありますが、６月７日の日曜日はクリーン大作戦となっていますので早朝ですがよろしくお願いします。当日の内容等について社会奉仕委員長さん後ほどよろしくお願いします。あと一回は、１７日の水曜日ですが今年度の最終例会ということで、納会という形をとらせいいただきます。場所は東山荘で６時半から例会の後、懇親会を行いたいと思います。その時に本年度入会された３人の方の歓迎会も兼ねるという意味合いもありますので、お含み置きいただければと思います。最後に会長からの伝言であります。会員増強のことだけ言っておいて欲しいということです。あと１カ月ありますので皆さん努力していただきたい。ご存じのように１９人のところ３人の方に入っていただいて２２人を目標としておりました。目標通り３人の新会員が増えましたが、１人亡くなり、１人の退会がありましたので２人減っています。２人が厳しいとしましてもネバーギブアップ精神で最後まで勧誘をお願いいた

します。会長からのコメントを申し上げ会長の時間を終わります。

6．幹事報告(岩崎幹事)：①地区より訃報のご案内：①1998-99年度RID2610ガバナーの四津谷道昭氏(高岡RC)が5月3日ご逝去されました。②6月のロータリーレートは1＄＝118円。③5RC親睦ゴルフ、お疲れ様でした。南砺RCの4連覇でしたが、当クラブは久し振りの3位という好成績でした。④近隣クラブの例会の変更については、事務局に確認の事。

7．出席報告：本日20名中15名出席、3名がメイキャップあり、修正後90%の出席率です。

8．委員会報告：①斎藤副会長：四津谷パストガバナーに関する富山新聞広告については、坂井会長の判断で、近隣クラブ、特に砺波 RC(出さない意向)を参考にします。②雑誌広報委員会(三谷委員長)：今年度最後の友先読み報告です。次期浅田年度も同じ委員長です、宜しく。今月号に横書 p38.に事務所変更について、当クラブが出ています。「友」に当クラブ名が出ることは珍しいので、見て下さい。来期も友を呼んで下さい。見出しを見て、面白そうな記事を見つけて読むのもよし、大変美しい表紙の写真表裏の記事を読むのもよし、親しんで下さい。③社会奉仕委員会(中島委員長)：6月7日(日)「クリーン大作戦」は、7時開始ですので、6時半までに庄川庁舎前にお集まりください。現在まで、12 団体の協力を得る予定です。庄川小学校も昨年に続いて参加する予定です。④中島次期幹事：先日は、地区協の参加を有難うございました。6月 17 日最終例会は、東山荘ですが、年度明けて、7月 15 日は新年度懇親会 18：30 より、三楽園で開催します。

9．ニコニコＢＯＸ(SAA：本日5名)

斎藤副会長：先日 PET 診断を受診し、お陰さまでセーフでした。益々、頑張ります。本日は会長代理、宜しくお願いします。

岩崎幹事：誕生祝い有難うございます。57 歳になりました。1年間有難うございました。

三角会員：早退します。長谷川様、ごめんなさい。

中島会員：富山出張により、早退失礼します。

山本武夫 SAA：今朝から家内にお目玉！ついつい、錦織の準々決勝応援してしまいました。勝てば世紀の一戦と言われてました。明日から歯の衛生週間、むし歯予防デーという言葉も再起はあまり使わなくなりました。しかし、現実はまだまだむし歯は多いです(特に、成人の)。

卓話「巴御前と福光」長谷川吉美会員

長谷川会員：私の家の前に昔から、大きな1本松があり、私の家の屋号も「一本松屋」でした。その名も「巴塚の松」で、巴御前にちなんで、昭和34年町指定文化財(現在市指定文化財)に指定されました。地元の歴史家のグループが以下のような伝説を記しています。

【福光の伝説：一本松・巴塚】

今から750年ほど前、源氏と平家の戦いの頃。皆さんも知って居られる通り、木曽義仲が倶梨伽羅谷で平家の大軍

を攻め破りました。その時、義仲の妻は巴御前という、強弓荒馬乗りの名手で常に義仲と軍を倶にした女ながらも男にまさるような、力の強い方でした。巴御前はこの倶梨伽羅谷戦で数々の功名手柄をたてられましたが、その合戦中に丁度お腹が大きかったのです。夫を助けて勇ましく戦っている中に赤ちゃんが生まれそうになって来たので、急いで福光に来て生みなさいました。けれども、戦に出なくてはなりませんので、可哀そうでしたが赤ちゃんを殺して、泣き泣き、土を掘って埋められました。そしてその上に大きな石をのせて、横に一本の松の木を植えました。その木がだんだん成長して、今の一本松になったのだと伝えられています。また、後に巴御前が亡くなられた時、その遺骸もそこに埋めて、巴御前母子の墓にしたとも言われています。或いは、巴御前の乳母の「おさち」という人も一緒にここに葬ってあるのだとも言われています。それから、一本松の根元の近くに、高さ一尺ばかりの黒石が三つ散らばっています。この石は色が、漆のような黒であり、昔福光付近を石黒郷と呼んだのは、この石があるからだそうです。また、この石でその頃の石黒郷と広瀬郷との境にしたのだとも申します。或いは、巴御前の墓石にしたもので烏帽子石ともいわれます。

さて、巴御前ですが、今富山県内では、NHKの大河ドラマの舞台にとキャンペーン活動をしていますが、もうすでに5回も却下されたそうです。なかなか「木曽義仲・巴御前」だけでは内容に乏しく、1年もつボリュームにかけるようです。でも、この巴御前を調べてみると、伝説の人らしく、諸説があり、全国各地に言い伝えが残っています。そもそも、巴御前は、平安時代末期の信濃国の武将とされ、『平家物語』によると、源義仲の便女。『源平闘諍録』によると、樋口兼光の娘。『源平盛衰記』によれば、中原兼遠の娘、樋口兼光・今井兼平の妹で、源義仲の妾。よく妻と誤記されるが、源義仲の妻は巴御前ではありません。

以下、Wikipediaの資料から、経歴を記します。

【軍記物語『平家物語』の『覚一本』で「**木曾最期**」の章段だけに登場し、木曾四天王とともに義仲の平氏討伐に従軍し、源平合戦（治承・寿永の乱）で戦う大力と強弓の女武者として描かれている。「木曾殿は信濃より、巴・山吹とて、二人の便女を具せられたり。山吹はいたはり[4]あって、都にとどまりぬ。**中にも巴は色白く髪長く、容顔まことに優れたり。強弓精兵、一人当千の兵者（つわもの）なり**」と記され、宇治川の戦いで敗れ落ち延びる義仲に従い、最後の7騎、5騎になっても討たれなかったという。

義仲は「お前は女であるからどこへでも逃れて行け。自分は討ち死にする覚悟だから、最後に女を連れていたなどと言われるのはよろしくない」と巴を落ち延びさせようとする。巴はなおも落ちようとしなかったが、再三言われたので「最後のいくさしてみせ奉らん（最後の奉公でございます）」と言い、大力と評判の敵将・御田（恩田）八郎師重が現れると、馬を押し並べて引き落とし、首を切った。その後巴は鎧・甲を脱ぎ捨てて東国の方へ落ち延びた所で物語から姿を消す。

「巴御前出陣図」蔀関月：筆

八坂流の『百二十句本』では、巴を追ってきた敵将を返り討ちにした後、義仲に落ちるように言われ、後世を弔うことが最後の奉公であると諭されて東へ向かい行方知れずとなったとされ、『長門本』では、落ち延びた後、越後国友杉に住んで尼となったとされる。

最も古態を示すと言われる『延慶本』では、幼少より義仲と共に育ち、力技・組打ちの武芸の稽古相手として義仲に

大力を見いだされ、長じて戦にも召し使われたとされる。京を落ちる義仲勢が 7 騎になった時に、巴は左右から襲いかかってきた武者を左右の脇に挟みこんで絞め、2 人の武者は頭がもげて死んだという。粟津に着いたときには義仲勢は 5 騎になっていたが、既にその中に巴の姿はなく、討ち死にしたのか落ちのびたのか、その消息はわからなくなったとされている。

『源平盛衰記』では、倶利伽羅峠の戦いにも大将の一人として登場しており、横田河原の戦いでも七騎を討ち取って高名を上げたとされている（『長門本』にも同様の記述がある）。宇治川の戦いでは畠山重忠との戦いも描かれ、重忠に巴が何者か問われた半沢六郎は「木曾殿の御乳母に、中三権頭が娘巴といふ女なり。強弓の手練れ、荒馬乗りの上手。乳母子ながら妾（おもひもの）にして、内には童を仕ふ様にもてなし、軍には一方の大将軍して、更に不覚の名を取らず。今井・樋口と兄弟にて、怖ろしき者にて候」と答えている。敵将との組合いや義仲との別れがより詳しく描写され、義仲に「我去年の春信濃国を出しとき妻子を捨て置き、また再び見ずして、永き別れの道に入ん事こそ悲しけれ。されば無らん跡までも、このことを知らせて後の世を弔はばやと思へば、最後の伴よりもしかるべきと存ずるなり。疾く疾く忍び落ちて信濃へ下り、この有様を人々に語れ」と、自らの最後の有様を人々に語り伝えることでその後世を弔うよう言われ戦場を去っている。落ち延びた後に源頼朝から鎌倉へ召され、和田義盛の妻となって朝比奈義秀を生んだ[5]。和田合戦の後に、越中国礪波郡福光の石黒氏の元に身を寄せ、出家して主・親・子の菩提を弔う日々を送り、91 歳で生涯を終えたという後日談が語られる。】

【「御前」「便女」の意味は、以下の通りです。

「御前」という語は貴人や貴人の妻に対し用いられるが、静御前や虎御前のように、白拍子や遊女に対しても用いられる。巴の場合も後者と同様の用例であろう。

「便女（びんじょ）」というのは、文字通り「便利な女」の意味で、戦場では男と同等に戦い、本陣では武将の側で身の回りの世話をする（性的奉仕を含む）召使いの女。当時それらの役割は「寵童」と呼ばれる見た目の良い少年にさせる事が多かった。便女も見た目のよい女性が就く場合が多く、便女＝美女という解説がなされる場合もある。】

全国あちこちにいわれが残る所以は、巴御前は侍女に後世に伝えるよう、いい含めたことにあるらしく、侍女たちが各地に散って広めた話があちこちに残るらしい。

義仲寺の巴塚

木曽義仲が、源頼朝や義経に滅ぼされたのは近江国琵琶湖湖畔、巴御前は墓所を立て供養をしたがそれが、「義仲寺（ぎちゅうじ）」。松尾芭蕉はこの寺を愛し、弟子に自分が亡くなったら、この寺に葬るよう遺志を残した。1993 年芭蕉三百回忌が催された【筆者、追記】

今年度（坂井年度）、最後の卓話記録を、委員長の独断で資料を追加して掲載しました。長谷川会員の熱意が伝わる興味あるものでしたので、HPから少し追加で引用させてもらいました。さて、今年1年間、特に中島会員には大変お世話になりました。小生、次年度（浅田年度）も会報委員長を仰せつかっております。委員（長田会員、山本英介会員、桧原会員）の皆様の協力を得て、1年無事務めたいと思っております。宜しくお願い致します。（山本武夫）